

公開実用 昭和 59— 150729

29 日本国特許庁 (JP)

04 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭59—150729

56 Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

特公開 昭和59年(1984)10月 8 日

B 65 D 23:08

7312-- 3E

審査請求 未請求

(全 頁)

分類客器類

京都市上京区下立売通智恵光院

西入中務町486番地の127

出実 願 昭58—45925

出 願 人 竹川恭子

出 願 昭58(1983) 3 月29日

京都市上京区下立売通智恵光院

出 願 者 竹川恭子

西入中務町486番地の127



明 細 書

1 考案の名称 瓶容器類

2 実用新案登録請求の範囲

適宜形体の瓶容器類をガラス材で作し、その外面に適宜厚の超硬質、硬質等の合成樹脂層を被覆層形成して成る瓶容器類。

3 考案の詳細な説明

本考案は、薬瓶等の瓶類の改良に関し、内部はガラス層であるので内容物に変質等のおそれはなく、外層は合成樹脂層であるから、落下等のシヨツクに対しては耐性があり、簡単に割損することはないので、損傷ロスとならず、従つて各種薬品の場合、例えば地震等の天災時でも落下等によつて割損し、化学反応により火災を起すことはなく、又日常家庭で食料品等の瓶容器品でも、落下等によつて割損のおそれなくその他、他の瓶容器製品にも有効適切な瓶容器類を提供するものである。

本考案は、適宜形体の瓶容器類をガラス材で作し、その外面に適宜厚の超硬質、硬質等の合

(1)

公開実用 昭和59— 150729

成樹脂層を被覆層形成して成る瓶容器類に係るものである。

本考案は、上記のとおり、ガラス材層(1)の外面に超硬質、硬質等の合成樹脂(プラスチック)層(2)を被覆合着形成した瓶容器類(3)であり、従来品のようにガラス材層のみの瓶容器類でないことが特色であり、又その特色により、従来品とは異なる特性を有するものである。

即ち、適宜厚の被覆形成の合成樹脂層(2)により、落下、当接時等の耐ショック性、耐陽光性、等の点で優れており、耐ショック性の場合、外装工夫により、割れ物とはいえないので、内部保護機能もあることから、非常に適性なものといえる。又従つて、耐太陽性、耐光性等もあつて、外層(2)を不透明、不透光等にすることにより、十分に各用途に実効し得る瓶容器類にできることはいうまでもない。

しかして、本考案は、各種瓶容器類のほか、ガラス材による同類の従来品に適用し得ることはいうまでもなく、本考案の精神的內容である


ことはいうまでもない。

△ 図面の簡単な説明

図面は本考案の一例を半縦断面して示す。

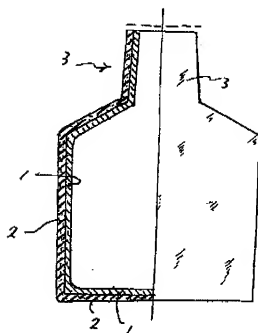
(1)・・ガラス材層、(2)・・合成樹脂層、(3)・・瓶容器類。

実用新案登録出願人

竹 川 恭 子 

(3)

公開実用 昭和 59-150729



266

実開59-150729

実用新案登録出願人

竹川 恭子

